

アザラシを高次捕食者とする厚岸湾の食物網 ～アザラシ個体数の増減が与える生態系への影響～

東京農業大学生物産業学部アクアバイオ学科

小林万里

【目標】

本研究では、厚岸湾における高次捕食者であるアザラシを中心とした食物網を把握し、それらの個体数によりどのような影響があるのかを知るために、①地域や漁業形態による実際の被害物の特徴を調べて、被害による漁業へのインパクトを推定し、②アザラシ側から、厚岸湾内をどのようなアザラシがどれぐらい、また何をどれぐらい食べているのかを調べて、彼らが厚岸湾の生態系や漁業に与える影響を推定する。それに、③これまでの厚岸湾における動物相の文献調査や漁獲高などの推移などからモデルを作成し、今後アザラシと漁業との共生策のための資料とする。 ※今年度は下線部の調査を行った。

【目的】

北海道にある厚岸町は、北海道釧路支庁管内の厚岸郡にあり、釧路支庁管内東南部に位置する町である。現在、この厚岸町の漁業は深刻な状況におかれている。厚岸町にある大黒島は北海道で2番目に上陸するアザラシが多い島であるため、近年アザラシの個体数が増加したことにより、網にかかった魚を食べられてしまったり、傷つけられてしまったりして、漁業への被害が出ているためである。今後の厚岸の漁業が持続できるように漁業被害を軽減する方法を見出すことが重要である。そのためにも、アザラシと漁業のつながりを解明していく事はとても必要急務なことである。そこで、漁業の面からその実態を把握するために、実際に厚岸湾で被害実態調査を行った。被害実態調査は、地域別、漁法別、対象魚種別の被害形状や被害量などを推定することを目的とした。

【方法】

これまでは、アザラシによる漁業被害がどの漁場でどの魚種にどのような被害がどの程度あるのか、という詳しい情報はほとんど存在しなかった。そこで厚岸湾での春の漁業の期間におけるアザラシによる被害の実態を知るために今回調査を行った。春の漁業ではシラウオ小定置、チカ・小舞小定置、ニシン刺網、カレイ刺網、チカ・キュウリ刺網での調査を行った。それらの網でのアザラシによる被害実態調査として、真竜地域、門静地域、苫多地域の漁業者の方たちへの聞き取り調査、被害物の回収を行った。真竜地域のAさん、Bさん、門静地域のCさん、Dさん、苫多地域のEさん、Fさんの3つ地域から各2名、合計6名の漁業者の方に聞き取り調査を実施した。厚岸町漁業組合の方からいただいた漁獲データ、回収された被害物の被害データ、また回収できなかった被害物の重量を計算し、算出した最低推定被害重量を使い様々な分析を行った。また、アザラシの目撃情報なども聞き取り調査の際に調査し、アザラシが厚岸湾にいる時期、時期による頭数の違いを分析した。

【結論】

漁獲からみると被害の量は多いとは言えない。しかし、今回の調査でわかった被害の重量はあくまでも被害の最低の重量である。アザラシによって網を破られてしまったという被害や漁法や魚種によっては、被害物の残骸が残らないものや残っても残りやすい残骸のものだけが残ってしい、残り難いものがあることが考えられた。また、ニシン刺網での被害物はニシンが多く、カレイ刺網での被害物はカレイが多かったが、シラウオ小定置では、チカやコマイが多く漁獲されているにも関わらず、被害としてはカレイが多かった。漁獲重量としてのカレイは、6番目に漁獲が多い魚種であったため、アザラシはシラウオ小定置内に侵入し、小定置内で魚を選び、好んだ魚を捕食している可能性が示唆された。しかし、漁獲の多いチカ、コマイ、キュウリウオは比較的小さな魚なため、アザラシが丸のみしてしまったということも考えられるため、被害として現れていない可能性も否定できない。

漁業者の生活を考えると被害の打撃は、非常に深刻な問題であると言えるが、漁獲と被害の量は、今回の調査では明らかにできなかった。この厚岸町におけるアザラシによる被害調査は、まだ私の行った調査から始まったばかりの調査である。この調査は今後も続けられていくが、それと並行して被害対策、アザラシの個体数管理をどのように行っていくかというものが今後の課題である。